内原中学校区　施設分離型小中一貫教育に関する研究

内原中学校　　妻里小学校
鯉淵小学校　　内原小学校

めざす児童生徒像　　**人との関わりを通して信頼する心を大切にする児童生徒**

研究主題　　**人との関わりを通して信頼する心を大切にする児童生徒の育成**

１　主題設定の理由

内原中学校区では，これまで「人との関わりを通して信頼する心を大切にする児童生徒」をめざす児童生徒像として掲げ，４校で連携を進めてきた。このテーマは，「友達を信頼する気持ちが弱いためにトラブルになってしまうことが多い」という児童生徒の課題を解決するために，４校が連携して指導していこうという考えの下に設定されたものである。

この課題に対応するために，内原中学校区では平成 27～30 年度と，全職員が参加して「ライフスキル」の研修を行ってきた。また，「内原中学区小中一貫教育『生活ガイド』『学習ガイド』」を作成し，指導の内容・目標を定めて取り組んできた。しかし，その指導の方法や効果については十分に共有されてはいなかった。そこで，本年度は，「指導の内容を絞る，指導時期を決める，実践結果を共有する」といった方向性を定めて研究に当たった。全担任が実践経験を積み，その経験を基に「人との関わりを通して信頼する心を大切にする児童生徒」をいかにして育てていくかに迫るために，この主題を設定した。

２　研究のねらい

信頼する心を育む教育(ライフスキル，道徳等)，「生活ガイド」「学習ガイド」の活用，交流活動について，４校で指導法を研究・実践し，信頼する心を大切にする児童生徒を育成する。

３　具体的な取組内容

(1)　信頼する心を育む教育研究部

①　道徳研究部

○　授業時数確保，全ての内容項目の授業実践

重点：Ｂの内容項目（１学期・・・・・人との関わり）

Ｃの内容項目（２学期・・・・・家族・命＜高学年・中学校＞）

○　道徳コーナーの設置（学年・学級毎に工夫）

○　授業で使用したノートやワークシートの蓄積➡今後の授業や評価へ

○　各校における計画・要請訪問等での相互授業参観

② ライフスキル研究部

○ 夏季研修会「ライオンズクエスト」の研修やテキストを生かした授業実践

・小学校　単元１（コミュニケーションスキル）「みんなはこの学校の仲間だよ」

・・・・・１～２時間実施（１時間は必須）

単元２（感情のコントロール）「なかまとともに大きくなろう」

・・・・・・２時間実施（必須）

単元５（自己理解・他者理解）「あなたとわたしをたたえよう」

・・・・１～２時間実施（１時間は必須）

※単元１・２・５で，年間４～５時間を必ず実施する。

※内容は学年・学級の実態に応じて，テキストから選択する。

・中学校　１年生　単元２（コミュニケーションスキル）・・・４時間

＜１学期；１回，２学期；２回，３学期；１回＞

２年生　単元３（感情のコントロール）・・・・・・４時間

＜２～３学期；４回　※未確定＞

３年生　単元７（人生の道のり：進路に向けて）・・４時間

＜２学期；４回＞

※内容は学年・学級の実態に応じて，テキストから選択する。

【資料１】協働での授業研究

【資料２】ライオンズクエスト研修

(2) 生活ガイド活用研究部

① 作成のねらい

平成 26 年に，【資料３】を作成し，内原中学校区（鯉淵小・妻里小・内原小・内原中）内の全児童・生徒へ配付していた。厚紙に印刷されたものを配付し，生活の約

○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする	5	あさ　「おはようございます」　ひる　「こんにちは」　かえり　「さようなら」			
			・げんきよくあいさつができる。	・はっきりとあいさつができる。	・気持ちよいあいさつができる。	・時と場に応じて，気持ちよいあいさつができる。
		6	・なまえをよばれたら「はい」とおおきなこえでへんじをすることができる。	・名前をよばれたら「はい」とはっきり返事をすることができる。	・名前を呼ばれたり，言われたりしことに「はい」とはっきり返事をすることができる。	・時と場に応じた気持ちよい返事をすることができる。
	4 ていねいな言葉づかいを身につける	7	・「です，ます」をつかうことができる。	・「です，ます」をはっきりと言うことができる。	・ていねいな言葉づかいができる。	・時と場に応じたていねいな言葉や敬語をつかうことができる。
		8	・「ありがとう，ごめんなさい」をすなおにいうことができる。	・「ありがとうございます」「すみません」「ごめんなさい」「失礼します」を場に応じてはっきりと言うことができる。	・相手の気持ちを考えた，やさしい言葉づかいができる。	・相手の気持ちや場に応じたやさしい言葉づかいができる。

【資料３】「生活ガイド」

束を統一して指導する体制を整えた。こうすることで，各小学校間・小中学校間において同じ視点で指導できるため，中１ギャップを防止する効果があると考え実施した。

② 本年度の取組

「生活ガイド」作成以来，生徒指導主事を中心に改善を行ってきた。昨年度は各学校統一した指導を強化するため，各学期の重点項目を決定した。

今年度はさらに，看護日誌の目標に各月の重点目標を記入し，その視点の下児童・生徒の看護を行い，日頃の指導に活用した。こうすることで内原中学校区の全児童・生徒が同じ時期に同じ指導の重点のもと生活をすると共に，内原中学校区全職員が共通理解の下，指導に当たることができるようになった。

(3) 学習ガイド活用研究部

① 作成のねらいとこれまでの歩み

生活・学習の約束を統一して指導する体制を整えるため，平成 26 年に作成された「生活ガイド・学習ガイド」は，内原中学校区内の全児童・生徒へ配付され，各小学校間で同じ視点で指導を行い，中１ギャップを防止する効果が挙げられた。

【資料４】「学習ガイド」

「学習ガイド」【資料４】の主な内容は，①学習準備，②授業の挨拶，③聞き方・話し方・書き方，④家庭学習についてである。昨年度は，「規律と協働を高める八策」が示されたことを受けて，今までやってきた挨拶の仕方を続けつつ，きちんと挨拶の意味を意識させたり，小学生からしっかりと計画を立て，見通しをもって家庭学習に取り組ませたりすることなどを４校が確認することができた。また，授業についても「も・み・じ・か・と・ま・れ・ふ」を意識した授業の展開や，内原中学校区小中一貫の目標・新学習指導要領で求められている内容を踏まえ，「と：友達の意見を聞く（話合い）」「ふ：ふりかえり」に特に重点を置くことを確認した。

【資料５】「学習ガイド通信」

② 本年度の取組

本年度は月毎に重点目標を設定し，学級に掲示できるようなカードを「学習ガイド通信」【資料５】として作成した。昨年度まではシート１枚にまとめられていた学習ガイドだが，内容項目を１つずつ取り上げ掲示したことで，児童・生徒が常に目標を意識して生活することができたと考える。

(4)　交流活動推進部

①　職員間の交流活動

内原中学校区４校の全職員が「信頼する心を育む教育研究部」「生活ガイド活用研究部」「学習ガイド活用研究部」「交流活動推進部」の４つの部会に分かれて活動した。また，公開授業に向けて，３校の小学校の職員による担当学年ごとの授業内容についての話合いでは，様々な内容の相談ができる交流の場となった。

さらに，学力向上に向け，小学校４教科の教科主任と中学校の教科担当者による分析を行い，中学校教員からの専門的なアドバイスを受けながら，対策問題を作成するなど積極的な交流が図られた。

②　児童生徒の交流活動

○　小学校の「学びの広場」サポートプラン事業への中学生サポーター派遣

○　小中合同あいさつ運動

○　中学校進学へ向けての，６年生の中学校訪問《保護者説明会（部活見学会）と新入生説明会（部活動体験入部）》

○　小学５年生の宿泊学習の合同実施

【資料６】キャンプファイヤーでのフォークダンス

４　成果（進捗状況と今後の課題）

(1)　進捗状況

○　合同研修会を行って児童・生徒の実態を話し合い，道徳，ライフスキル学習で取り組む内容について共通理解を図った。その上で，計画的な授業実践を行ったことで，自分の感情を優先する場面が年度当初より減少し，相手の言動を少しずつ受容的に受け止められるようになってきた。

○　生活面・学習面において月毎の重点を決めて取り組んだため，児童・生徒・教師が目標を意識し，生活・学習に４校で足並みをそろえて取り組むことができた。

○　小中一貫教育企画会の定期的な実施により，教頭，教務主任同士での意思疎通がスムーズになり，お互いの学校の状況を把握することができた。また，内原中学校区小中一貫教育合同研修会・部員会を定期的に実施したことや，公開授業に向けて協働で授業づくりに取り組んだことで，今まで，近くても遠い存在だった中学校区の職員間を身近な存在にすることができ，小中・小小の連携を強めることができた。

(2)　今後の課題

●　お互いが気持ちよく生活するために望ましい人との関わり方は分かってきているが，信頼する心を育みより円滑な人間関係を構築するまでには至っていない。今後も道徳の授業やライフスキル学習，今までの取り組みの改善等，研修を小中協働で継続的に行っていき，目指す児童生徒像の実現を図る。